

Day 05

メモリ 4 ビットで表現できる数値

Kotaro Sonoda @helmenov

1. 4bit で表現できる数値の種類

4bit で表現できる数値の集合 Ω は,

$$\Omega = \{(0000), (0001), \dots, (1110), (1111)\}$$

要素の数は？

16種類

ですね. ($16 = 2^4$)

2. 自然数 (符号無し整数, unsigned integer)

高校で習う 2 進数変換では, 自然数を表現しています. 4bit では 16 種類の自然数 (0~15) を表現します.

- $0000_{(2)} \rightarrow 0_{(10)}$

- $0001_{(2)} \rightarrow \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2^3 \\ 2^2 \\ 2^1 \\ 2^0 \end{pmatrix} = 2^0 = 1_{(10)}$

- $0010_{(2)} \rightarrow 2^1 = 2_{(10)}$

- $0011_{(2)} \rightarrow 2^1 + 2^0 = 3_{(10)}$

⋮

- $1111_{(2)} \rightarrow 2^3 + 2^2 + 2^1 + 2^0 = 15_{(10)}$

3. 整数（符号付き整数, integer）

16 種類を正と負、半々に割り振ります。つまり、 $-8 \sim 7$ の 16 種類を表現することにします。

2 の補数表現

- 最高位桁を正負の符号と定義する (0: 正, 1: 負)
 - 最高位桁を除いたビット列で正の整数を表す。
– $(000) : 0 \sim (111) : 7$
 - $(10000) \equiv (0000)$ と定義する
 - 負の整数「 $-n$ 」の 2 進数表記 $X_{(2)}$ は、対応する正の整数「 n 」の 2 進数表記 $N_{(2)}$ と「 $X + N = 0$ 」の関係にある。
-

Q1: $(-5)_{(10)}$ を 2 進数表記せよ

$X_{(2)} = (-5)_{(10)}$ とすると、

$$\begin{aligned} (+5)_{(10)} + (-5)_{(10)} &= (0)_{(10)} \\ (0101)_{(2)} + X_{(2)} &= (10000)_{(2)} \\ &= (1111) + (0001) \\ X &= (1010) + (0001) = (1011) \end{aligned}$$

したがって、 $(-5)_{(10)} = (1011)_{(2)}$

Q2: $(1101)_{(2)}$ を 10 進数表記せよ

$(1101)_{(2)} = -n_{(10)}$ で、 $n_{(10)} = N_{(2)}$ とする。

$$\begin{aligned} (-n)_{(10)} + n_{(10)} &= (0)_{(10)} \\ (1101)_{(2)} + N_{(2)} &= (10000)_{(2)} \\ &= (1111)_{(2)} + (0001)_{(2)} \\ N_{(2)} &= (0010)_{(2)} + (0001)_{(2)} \\ &= (0011)_{(2)} \\ n_{(10)} &= 3_{(10)} \end{aligned}$$

したがって、 $(1101)_{(2)}$ は $3_{(10)}$ である。

4. 小数点付き符号無し2進数

改めて10進数の小数を眺めると,

$$3.14_{(10)} = 3 \cdot 10^0 + 1 \cdot 10^{-1} + 4 \cdot 10^{-2}$$

であった. 小数点の左に行くほど $10^0, 10^1, \dots$, 右に行くほど $10^{-1}, 10^{-2}, \dots$ の位となっている.

2進数の場合も同様である.

$$\begin{aligned}(01.01)_{(2)} &= (0 \quad 1 \quad 0 \quad 1) \begin{pmatrix} 2^1 \\ 2^0 \\ 2^{-1} \\ 2^{-2} \end{pmatrix} \\ &= 2^0 + 2^{-2} = 1 + 1/4 \\ &= \left(\frac{5}{4}\right)_{(10)}\end{aligned}$$

Q: $(3.14)_{(10)}$ を小数点付き符号なし2進数で小数点以下4桁まで表記せよ.

$2^1 \leq (3.14)_{(10)} < 2^2$ であるから,

$$(3.14)_{(10)} = 1 \cdot 2^1 + (1.14)$$

$2^0 \leq (1.14)_{(10)} < 2^1$ であるから,

$$(3.14)_{(10)} = 1 \cdot 2^1 + 1 \cdot 2^0 + (0.14)$$

$2^{-3} \leq 0.14 < 2^{-4}$ であるから,

$$(3.14)_{(10)} = 1 \cdot 2^1 + 1 \cdot 2^0 + 1 \cdot 2^{-3} + (0.015)$$

$2^{-7} \leq 0.015 < 2^{-8}$ なので

$$\begin{aligned}(3.14)_{(10)} &= 1 \cdot 2^1 + 1 \cdot 2^0 + 1 \cdot 2^{-3} + 1 \cdot 2^{-7} + \dots \\ &= 2^{-4} \{1 \cdot 2^5 + 1 \cdot 2^4 + 1 \cdot 2^1 + 1 \cdot 2^{-3} + \dots\} \\ &\sim 2^{-4} \cdot (110010)_{(2)} \\ &= (11.0010)_{(2)}\end{aligned}$$

ちなみに, $(11.0010)_{(2)} = (3.125)_{(10)}$ である.

4 ビットで表せる小数点付き符号なし小数

- $(.0000) \sim (.1111)$: $0, 0.0625, \dots, 0.9375$ ($\frac{1}{2^4}$ 刻み)
- $(1.000) \sim (1.111)$: $1.0, 1.125, \dots, 1.875$ ($\frac{1}{2^3}$ 刻み)
- $(10.00) \sim (11.11)$: $2, 2.25, \dots, 3.75$ ($\frac{1}{2^2}$ 刻み)
- $(100.0) \sim (111.1)$: $4, 4.5, \dots, 7.5$ ($\frac{1}{2}$ 刻み)
- $(1000.) \sim (1111.)$: $8, 9, \dots, 15$ (1 刻み)

しかし、小数点の位置を別途保存する必要あり。

5. 正の浮動小数点小数

4bit のうち数 bit を小数点位置を表すために使う。

- 上位 k bit $[a, b, c]$ を小数点位置を表す指数部 S のために使う。
 - $S = (abc)_{(2)} - 2^{k-1}$
 - 情報処理技術者試験の場合、負の指数部は 2 の補数表現 $S = (111) - (abc) + (001)$
- 残りのビット列を $[d, e, f]$ としたとき、仮数部 N は、 $N = (1.def)_{(2)}$
- $N \cdot 2^S$
- 符号付き浮動小数点小数の場合は、最高位の桁 1 ビットを正負符号用に充てる。最高位ビットが 1 のとき負、0 のとき正
- (000_0)
 - $S(000) = (000)_{(2)} - 2^2 = -4$
 - $N(0) = (1.0)_{(2)} = 1$
 - したがって $1 \cdot 2^{-4} = (0.0625)_{(10)}$
- (000_1)
 - $S = -4$
 - $N(1) = (1.1)_{(2)} = \frac{3}{2}$
 - したがって、 $\frac{3}{2} \cdot 2^{-4} = (0.09375)_{(10)}$
- (111_1)
 - $S(111) = (111)_{(2)} - 2^2 = 7 - 4 = 3$
 - $N = \frac{3}{2}$
 - したがって、 $\frac{3}{2} \cdot 2^3 = 12$